

モニカ・フェレイラ

Monica Ferreira

ILCグローバル・アライアンス共同理事長・ILC南アフリカ理事長

ロバート・バトラー博士は、ILC南アフリカの設立を熱心に促し、勧めてくださった。それ以前から私は、第一線の老年学者、老年医学者としての彼の業績を知っていたし、世界各地で行われた数え切れないほどの講演を聴いていた。2002年に、南アフリカにILCを設立することに関してお手紙をいただいた。翌年、彼と奥様のマーナ・ルイス博士がケープタウンを訪ねられたときに、私どもは真剣な議論を交わした。2005年、リオデジャネイロにおいてILC南アフリカは承認された。

エイジングに関する知識、理解、政策、実践に彼がどれほど偉大な貢献をしたかは伝説となっている。彼が、エイジングは「肯定的な好ましいもの」であると、その概念を変革した先駆者であることは、紛れもない事実である。しかしバトラー博士の哲学や理念は主として西洋を背景に確

立されたものなので、それをアフリカの状況に適合するように努めるのがILC南アフリカの任務である。これに関してもバトラー博士は、発展途上国の無数のエイジング問題を理解し、それに対応できるかに全力を傾けてくださった。

威厳があり、謙遜、寛容、博学な方、また好奇心、情熱、品のあるユーモアにあふれる方として、これからもボブを思い出すことだろう。

2010年10月のケープタウンの年次総会に同席していただくことが叶わず、彼の存在感、叡智、導きを失って大きな寂しさを覚えた。

彼の死は私たちに大きな喪失感を残したが、彼の天性の発想力、パートナーとしての連携や友情にまつわる思い出は、これからも永遠に生き続けるだろう。



左から、森岡理事長、筆者、サリー・グリーンダロス（ILC英国理事長）、バトラー博士、大迫政子（ILCグローバルアライアンス事務局長）